

「おそなえ、おさがり、おすそわけのこころ」

認定NPO法人 おてらおやつクラブ 理事 福井 良應

日本の子どもの7人に1人は貧困状態にあるという事実、また、ひとり親家庭に限れば2人に1人がそれに該当するという事実は、広く知られるようになりました¹⁾。ところが、一見、身の回りにそのような子どもは見かけないという貧困の見えづらさが、問題の発見と解決を難しくしています。

認定NPO法人 おてらおやつクラブは、お寺におそなえされるさまざまな「おそなえ」を、仏さまからの「おさがり」として頂戴し、子どもをサポートする支援団体の協力のもと、経済的に困難な状況にあるご家庭へ「おすそわけ」する活動です。活動趣旨に賛同する全国のお寺と、子どもやひとり親家庭などを支援する各地域の団体をつなげ、お菓子や果物、食品や日用品をお届けしています。現在では、日本全国の約1,600のお寺、500の支援団体が連携し、毎月のべ約2万人の子どもたちにおすそわけを届けています(図1)。

ここで、おてらおやつクラブを通じておすそわけを受け取られた、あるお母さんの声をご紹介します。

『おすそわけを受け取りました。なんだかクリスマスプレゼントをいただいたような気持ちになりました。娘が外出して一人だったので思わず涙が出てしまいました。中学1年の娘を一人で育ててきましたが、頑張ってきたぶんすこし疲れてしまい、今後も頑張らないといけないのですが、ここ数か月は落ちこんでいる状況でした。親や友人には苦勞を見せたくないのですが、すこし離れている方には弱音がはける、ということなんだと思います。本当にどうもありがとうございます』

このように、おすそわけを受け取った方の声に共通するのは、苦しいときは誰かに頼ってもいいのだという気づき、自分はひとりではないという実感を得ること、そして、また明日からがんばろうと意欲がわいてくるなど、ポジティブな心理的変化を垣間見ることが



図1 おてらおやつクラブの概念図

できることです。団体の実施したアンケートでは、おすそわけを受け取った方のうち9割以上が心理的に「状況が良くなった」と回答しています²⁾。孤独感が緩和されたということがおすそわけの効用といえるでしょう。

2020年の春以降、新型コロナウイルス感染症の影響により、とくにひとり親家庭からの支援要請は急増、しかも緊急を要すると判断されるものが多くを占めるようになりました。具体的には、思うように食事が取れず足りない分は水を飲んでお腹をふくらませているといったような声です。その一方で、不安なニュースをきっかけに当活動を知り、寄付や寄贈品を送ってくださる個人や企業も少しずつ増えていきます。とくに寄贈品には「困ったときはお互いさま」「支援させてくれてありがとう」という言葉が、不思議と共通して添えられています。誰も不安を感じる社会状況下であるにもかかわらず、困っている人の助けになりたいと、当活動に心を寄せてくださる方々がおられます。そして、おすそわけを受け取った方はそのおすそわけを通して他者からの利他心に触れ、ときに涙し、いつかは恩返しできるようにしたいという気持ちを起す。そんな利他心にもとづくあたたかな循環が、地域のお寺を拠点に生まれています。

このような循環は、中世における地域寺社の活動にも見出すことができます。人々が「親族や自身の死後の安穩への希

写真2 事務局に届けられた御礼の写真



望というきわめて個人的なもの」をおそなえに託して地域の寺社へ寄進し、その財は「仏物・神物」となり、地域社会の「共有財」として使われたといえます³⁾。ものに思いをこめて仏前に供え、それを人々が分かち合うという慣習は、今も昔も変わらず社会に内在しているといえるでしょう。おそなえといえば、企業からの寄贈品には、シャンプーやコスメなどの日用品、マスクなどの衛生用品、非常食等も含まれます。また、新たに購入されたものですが、女性用衛生用品のおそなえもあります。それは当活動が廃棄ロスの削減の手段という以上に、より大事な人間の尊厳にかかわる部分での活動であることを表しているでしょう(写真2)。

廃棄物学会編『C&G』のインタビューで、西村恵信氏(元花園大学学長・禅文化研究所所長)は食品ロス問題に触れ、「残してはあかん、残すくらいなら手をつけるな。単純ですが、それに尽きるでしょうな」と話しておられます⁴⁾。まさに、自分のものとして執着し手をつけたり抱え続けたりするから、ものの価値を損ない、廃棄物やロスを生んでしまうのです。手に余るものは早々に手放して、社会の共有財として循環の流れに戻すことが大切でしょう。おてらおやつクラブは、物流ならぬ「仏流」の循環によって、社会課題の解決を目指してまいります。

参考文献

- 厚生労働省：2019年国民生活基礎調査の概況(2020), <https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa19/dl/03.pdf> (閲覧日2021年4月9日)
- おてらおやつクラブ：2019年度インパクトレポート(2020), https://otera-oyatsu.club/wp/wp-content/uploads/2020/07/20200630_impact_report.pdf (閲覧日2021年4月9日)
- 窪田涼子：中世在地社会の共有財と寺社, 同成社, p.333 (2019)
- 廃棄物学会編：「食」は生の原点、「食」と宗教には何故がない, C & G, 第12号, p.11 (2008)